

▼旧布施家

新潟県上越市安江から移築した300年前の住宅で、上杉謙信公重臣として栄えた豪農の家です。369㎡(112坪)14室からなる日本間、広い庭屋、出入口など格式高い重厚な感じが受け取れます。調度品はすべて布施家に残っていたものです。



▲水車小屋・ガラス工房

花瓶やコップ、ペンダントなどの展示販売をしています。トンボ玉のガラス細工体験もできます。

- ガラス細工体験(要予約)
1人2,100円～
- 営業日 土・日曜日
- 営業時間
午前11時～午後5時
- 問い合わせ先
☎0968・86・4564
肥後民家村まで



▲旧緒方家・小林美術館

旧七城町山崎にあった民家です。建築年代は1765年です。現在、小林政嗣さんの作品を展示した美術館として、また茶房として利用されています。

- メニュー
コーヒー 300円
ジュース 400円
抹茶セット 600円
- 営業日 水～日曜日
- 営業時間
午前11時～午後4時
- 問い合わせ先
☎090・8835・4023
小林まで



▶陶芸工房「万世窯」

陶芸愛好家達が集まって創作し展示販売も行っています。陶芸体験もできます。

- 陶芸体験(要予約)
1人1,200円～
- 営業日 金～日曜日
- 営業時間
午前9時～午後3時
- 問い合わせ先
☎0968・86・2368
丸山まで



▲木工館

地元の満永正人さん、Iターンされた小野弥さんが営む木工アトリエです。箸置き、落し蓋パズルなど展示販売しています。木工体験もできます。

- 木工体験(要予約)
1人500円～
- 営業日 火～日曜日
- 営業時間
午前9時～午後5時
- 問い合わせ先
☎090・8914・7798
満永まで
☎090・1407・9479
小野まで



◀旧山野家

玉東町白木にあった江戸末期の民家です。簡易宿泊で利用できます。



◀旧河野家

和水町瀬川から移築したもので江戸末期の建築です。L字型をしています。簡易宿泊で利用できます。



●簡易宿泊・簡易休憩

旧山野家、旧河野家は宿泊施設としても利用できます。五右衛門風呂体験、かまど体験、囲炉裏体験で昔の暮らしを体験してみたいいかがですか?

宿泊	●基本料金(4名まで1泊)	10,000円
	※1人増す毎に	2,000円
休憩	●基本料金(3時間まで)	1,000円
	※1時間増す毎に	500円



▲旧境家(国指定)

玉東町原倉にあった民家です。建築年代は1830年で内部には、玉名地方の生活用具が展示されています。



▲旧中原家・篠笛工房「山彦」

笛の製作販売、吹き方指導、その他竹製品の展示販売をしています。

- 篠笛教室・初級
毎週土曜日
午後3時～午後4時30分
受講料(1回毎)
大人 2,000円
小中学生 1,500円
- 営業日 木～日曜日
- 営業時間
午前10時～午後4時30分
- 問い合わせ先
☎090・7061・3213
高原まで



肥後民家村



古民家の野外博物館ともいえる肥後民家村。昭和50年から各地に残る代表的な民家を聖地清原台地の菊池川べりに移築復元し、創建当時の美しい姿で保存・展示しています。また、古墳との調和も保たれています。



▲茶屋ゲート・蕎麦屋木阿彌

民家村で最初に目に入ってくるのが中原邦雄さん夫婦が営むそば屋。手打ち十割そばが人気です。蕎麦打ち体験もできます。

- メニュー
木阿彌御膳 1,000円
蒸籠蕎麦 800円
卸蕎麦 800円
とろろ蕎麦 800円

- 蕎麦打ち体験(要予約)
3名様から受付しています。
1人 1,000円
- 営業日
木～日曜日、祝日
- 営業時間
午前11時～午後2時30分
- 問い合わせ先
☎0968・86・4885
中原まで



■肥後民家村

営業時間
午前9時～午後5時
休休日
毎週月曜日
問い合わせ先
肥後民家村
☎0968・86・4564
本庁経済課観光係
☎0968・86・3111(内線551・553)



◀野外ステージ・交流広場

古墳祭の野外コンサートでお馴染みの広場です。約3,000人を収容できます。山太郎祭、観月会などさまざまなイベントが行われます。誰でも1日3,000円で使用することができます。



▲対馬石屋根

対馬市(旧厳原町)から移築した石屋根です。

朝鮮海峡を隔て韓国を望む対馬の西部海岸地域一帯は、耕地が少ない上に、冬期には北西風が吹き荒れ、この地域の住民にとってわずかばかりの農業の収穫物は貴重な命綱でした。この農作物や衣類などを風雨から守り湿気を防いで十分な保存を考えた長年の生活の知恵がこの石屋根です。

約300年以前の建築様式で屋根の石材は対馬あそう石が使用されています。

民家村に行こう

全国各地の古民家を移築復元して作られた民家村。自然の中で当時の姿を残し、どこか懐かしさを感じます。

